第 13 期第 1 回 長野市緑を豊かにする委員会 会議録

開催日時	令和 2 年 1 月 21 日(火) 午後 1 時 30 分から
開催場所	長野市役所第二庁舎 10 階 講堂
委員出席者	委員 12 名 (欠席 2 名)
傍聴者	報道機関 2 名
事務局出席者	都市整備部長他公園緑地課職員 9 名
公開・非公開	公開
次第	会議次第 1 開会 2 委嘱書の交付 3 長野市あいさつ 4 委員紹介 5 正副委員長の選任 6 議事 1) 長野市の緑化施策について 2) ながの花と緑大賞 7 報告事項 1) 城山公園基本構想パブリックコメントの実施について 8 その他 9 閉会

議事

【要旨】

1) 長野市の緑化施策について

資料に基づき、事務局説明

(委員) 恐竜公園の話ですが、以前、恐竜にニックネームを付ける、また、恐竜に自然な色ではなく、派手な色を彩色するコンテストがあったかと思いますが、あれだけ多くの恐竜がいる公園は全国的にも少ないと思うので、史実に基づいた自然の色に戻し、恐竜のことを勉強できる公園にしたらどうか。

(事務局) 恐竜の色については、現在、子ども受けするような色合いになっており、市民の皆さんからも色のことについてご意見もいただいています。更新の時期に向けて今後、検討していきたいと思います。

(議長) 恐竜について現在はいろいろな研究がされている色々な説が出てきています。子供さんたちが公園の恐竜を見て、違うなと思ってしまうのは良くないので、学芸員さんに一通りみていただき、最近の研究ではこう言われているなど、説明を補足するなどの対応を検討いただくのはどうでしょう。

(事務局) 検討させていただきます。

(委員) 今後の公園緑地について考える上で、今回の台風災害の現状を踏まえて、今後、どのように復旧していくのか、今後の課題を今の段階でのお話で良いのでお聞かせいただき、それも含めて公園や緑についても考えていく必要があるかと思いますが現状を教えてくださいませんか。

(事務局) 台風 19 号において、千曲川沿線 44 公園被災しました。特に被害が大きかったのは、長沼や赤沼、豊野の公園ではトイレや四阿など公園施設が根こそぎ流れてしまった甚大な被害を受けた公園もあります。復旧、復興に向かって松代や篠ノ井の軽度な被害だった 23 か所は復旧して

開園しています。あと 19 か所が開園できていないので引き続き対応していく。特に長沼の破堤した付近の公園、ごみ袋置き場になった赤沼公園、リバーサイドの公園などは費用的には国庫補助で復旧を進めてまいりますが、数が多いので全部復旧するには来年度いっぱいにかかると思います。

(委員) 緑の活動についても、台風被害がなかった時のように同じようにはできないと思っています。優先順位のことも考えながらと思いお聞きしました。

(議長) 災害が起きる前に計画上、防災機能を書くことは簡単だが、災害時に実際、公園が果たした役割やオープンスペースの使われ方について、今後の教訓として後世に残して行ってほしいと思います。

(委員) 事業所の敷地の緑化について確認したい。2年前、弊社を新築の際、2階のウッドデッキに緑を設置しました。その際、申請したところ2階は含まれないと言われた。都会などでは屋上緑化なども多くあるので良いかと思いましたが、資料によると含まれないことがわかった。CO2の排出量という環境的な観点からみると2階でもいいと思うが、この機会に考え方を確認したい。

(事務局) これを作った時点では、壁面緑化は少なかったが、現在は市街地については、屋上、壁面緑化の技術も進んできた。長野市は中心市街地に駐車場が多く、そういったところへ緑の部分を増やしてほしい。今のところは、市では屋上や壁面は含んでいないが、今後の研究課題と認識しています。

(委員) 駐車場についてですが、長野駅東口は駐車場砂漠のようで緑が少ない。イギリスは駐車スペースの白線に花が植えられている。東口の駐車場の一角に緑のスペースを設けるよう検討していただきたい。

(委員) 屋上の緑化にしてもエコロジカルである緑化かどうか考えたほうが良い。顕彰制度を設けるなどして推奨していくことを長野市はやったほうが良いと思う。

(委員) エコロジカルかどうかという判断は植物の種類ですか。

(委員) 種類ではなく保水能力。それが植えられていることで省エネになっているかどうか。植物を見て心が癒えるかどうかではなく機能性が重視されるべき。癒しのレベルだとお金が切られてしまう。緑を道路に植えるにしても敷地に植えるにしてもどれだけ機能があると示していくことがお金を切られない方法でもあるかと思います。

(議長) 事務局いかがですか。

(事務局) そういったことも検討していきたいと思います。

2) 「ながの花と緑大賞について」について 資料に基づき、事務局説明

(委員) 賞金についてはなしということですが、賞状を頂いても公民館へ飾るくらいで、花壇をご覧になる市民の皆さんはわからない。例えば、花壇に置いておけるようなトロフィーのようなものはどうか。花壇づくりをした人達が誇示できて市から頂いたことが誰が見ても分かるものがないと思います。

(事務局) 貴重なご意見ありがとうございます。携わった皆様や市民が分かりやすく励みになるものを設置できるよう検討していきたいと思います。

(議長) 景観賞はプレートで表示する記憶がありましたが今もそうですか。

(事務局) プレートだったと思います。

(委員) こういう活動をやっているんだということをアピー

ルすることが大事ですね。

(委員) 長野市がずいぶん広くなったので、この時期に花が咲かない地域もあるのではないかと思います。秋の紅葉の時期もいいと思いますが、これがベストということですか。

(議長) 写真だけだと季節的に優位、不利出てしまうかもしれません。そこで、委員が現地に行って公開性など幅広く見るということですね。

(事務局) 現在、写真で応募していただき現地に行って審査という方法をとっている。秋になるとどんどんずれ込んでいく。例えば、写真のみの審査としてどの時期でもいいというのでもいいかもしれないが。

(委員) 植物の姿は冬は冬で美しい。枯れている姿も美しいと思っている。その地区に関わっている人が何を伝えたいのか評価されないのは寂しいです。

(委員) 毎年思うのですが、審査の公表を表彰状を渡すまではしないというのはおかしい。発表されれば見に行く人もいる。表彰式の11月頃に発表されて見に行ってもその時期には何もない。

(委員) 宿根草のモデルガーデンで5,6年前から他の地区にもPRしてきたが、広がっていかない。いろんな理由が考えられると思うが、花壇の質の向上も大事だと思う。一年草ばかりの花壇では経費が掛かるので宿根草の花壇を作っていくにはどうしたらいいか考えている。「花と緑大賞」については20前後の応募があって、個人のお宅、山の上の花壇、企業の植栽などをすべて同じベースで審査するのがすごく難しい。いくつかの部門に分けて審査する必要があるのではないかと考えている。

(委員) 「花と緑大賞」表彰式に講演会がなくなると聞いた。なくなると表彰される人以外はあまり来なくなる。緑を推進すると言っているわりには、一般の市民が参加する機会が縮小されている気がする。

(委員) 資金が潤沢だった頃にはそれもできたかもしれないが、今は資金がない中でそれは無理であろう。

(事務局) 大賞にかけるお金が枯渇してきて縮小となる部分もあるが、緑化緑育の面では、活性化させていきたいと考えています。お金がなくても人が集まる方法など皆さんの意見をお願いします。

(委員) 枯渇していくのは人口減少によるボランティア。お金も人もなくなっていく地域の担い手不足が問題となっている。これからの福祉は住自協単位の狭いエリアで支えあっていくという長野市のプランの中で、花に回せる人達がいるのか。多くの人はそんな状況ではない。新しい花と緑大賞では、手をかけなくてもこんなにできたという花壇が応募してきてほしい。そんな花壇が出てくると面白いし、真似するところも出てくると思う。お金がかからない花壇のモデルを作ってほしいとありましたが、なかなか実行できない。今後は今までの知恵ではなく、今までなかった知恵を出していかないとならないと思います。

(委員) 講演会の話ですが、被災した神戸や福島の花ボラさんの活動のお話をお聞きしたいと思います。長野においても被災したところも緑の活動の報告をする機会があったらいいと思います。

(議長) 2020年の花と緑大賞については、微調整の中で先程、事務局説明にあった方向で進めていくということ、また、本日、委員の皆さんの了解を得て進めていくという理解でいます。賞の今後がより良いものになるよう委員の皆様引き続きご審議いただきますこと、ご協力お願いします。

3) 城山公園基本構想パブリックコメントの実施について 事務局より報告

(委員) この構想は資金的にも裏付け必要だと思います。美術館以外は全部無料ですか。

(事務局) 現在、少年科学センターが有料。動物園は無料で入園していただき、動く遊具などは有料でご利用いただいて

います。市民プール、テニスコートは有料です。

(委員) 新しく整備された後はどうなるのですか。

(事務局) これから決めていくので、そちらについてはまだです。

(委員) 地球温暖化とか緑化といったものは関連的に急いでやらなければならないという時期にきていると思います。このプロジェクトやコンセプトに感激した金銭面で余裕のある人から寄付や基金を募ってはどうか。今後は資金源のことも考えた方がいいと思う。

(事務局) これから少子高齢化が進み、公園にお金をかけることは少なくなっていくと思われま。これからは、民間の力、公園の維持管理運営についても民間の力をお借りすることも考えていきたいと思ひます。

(委員) 現在、城山公園を利用されている方達はどのような方だと分析されていますか。圧倒的に長野市民、近隣の人なのかそれとも善光寺や美術館に來た観光客がある程度いるのか、「善光寺との回遊性を重視している」とあるが現在の状況を教えてください。

(事務局) 現在、城山公園に來園される方々として長野市民が多く占めています。それについて、再整備構想案を作るにあたって調べた経緯があるが、観光で善光寺に來た方の中には、公園がすぐ隣にあるというのでついでに公園を利用する方もあったが割合はかなり低い。このことから公園と善光寺が一体となっていないというのが課題でいかに多くの参拝客を公園へ導くか考へている。そのため交差点を回遊性のあるものとし公園と善光寺が一体となるよう考へています。

(委員) 観光する人にとっても、東山魁夷館、信濃美術館まではある意味引き付けられるかもしれないが、その先に動物園、プールがあってもあまり関係ないと思う。芸術の杜

までは観光客を引き付けてその先のふれあいの杜については、市民の皆さんがどう喜んでくれるか市民のニーズを知って、その2つの杜はある意味コンセプトは分かれてもいいと思うがどうでしょう。

(事務局) 両方の立場に立った整備というものを考えていきたいと思っています。

(委員) もんぜんぷらざの「じゃんけんぽん」は皆さんご存じですか。子供たちの学びの場、育みの場みたいなお年寄りと子供と一緒に遊べる場所、そういったものはいかがでしょうか。

(事務局) 具体的には決まっていないのですが、7ページにゾーニングに想定される施設ということでイメージを載せてありますが、じゃんけんぽん的な子供たちが屋内で遊べるような施設ということで、こういったものも今のゾーンの中では考えられるかと想定しています。しかし、その中で子供たちが遊べる施設については、もんぜんぷらざや善光寺一体エリアのどこへもっていくかは検討しているところです。

(委員) 美術館自体も開かれた美術館ということですね。

(事務局) 芸術の庭ゾーンは今の城山公園に入り込んでくる感じで、屋根のある公園は大人も子供も遊べる、市民の皆様にも、例えば個展を開いていただけるようにと考えています。

(委員) 子育て支援施設が入る形にはなっていないかもしれないが、子供達家族と一緒に入れて一緒に体験できるような場を考えているという認識で良いですか。

(事務局) そうです。

(事務局) 委員の皆様には、大変お忙しい中ご出席をいただきありがとうございます。また、ただいまは熱心にご議論をいただき、感謝申し上げます。

	それでは、以上をもちまして「第 13 期第 1 回長野市緑を豊かにする委員会」を閉会とさせていただきます。本日は、ありがとうございました。